

# 江向地区にまつわるストーリー

## 三角州の上につくられた城下町

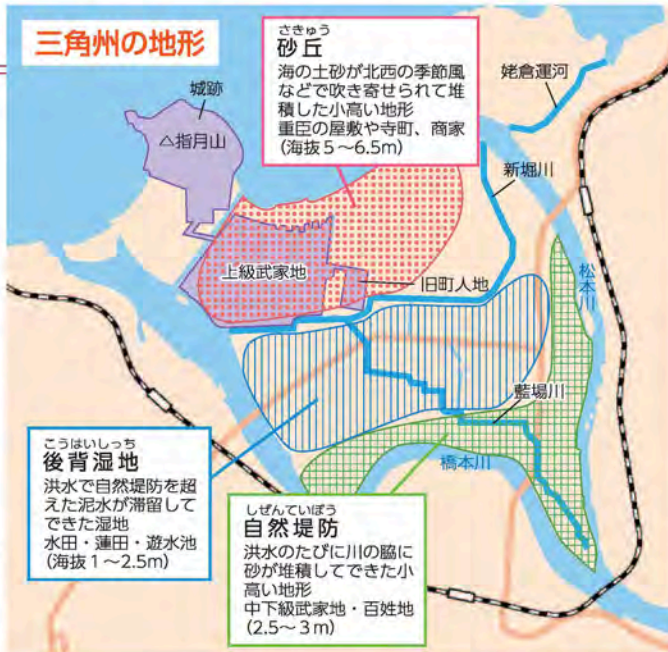
萩の城下町は橋本川と松本川に囲まれた三角州一帯に形成された城下町です。慶長9年(1604)毛利輝元が築城するまでは、三角州の東北、海辺の高所にわずかな集落と寺院があっただけで、その他はアシや竹木の生い茂った湿地帯でした。三角州の北西にあたる指月山に城が築かれてからは、三角州の中でも堀内などの海拔が高い北側の土地には重臣の屋敷や寺院、商家などが集められ、南側のやや高い土地は中下級武家地や百姓地として利用され、そして江向などの海拔が低く、湿地の多い土地は主に水田や蓮田、遊水池として活用されていました。

## 水とともに生きてきた町

三角州の上で作られた萩の城下町は常に水害に悩まされてきました。特に三角州内で最も海拔の低い江向では洪水のたびに浸水していました。そのため、水害対策は萩藩にとって重要な課題でありました。

3代藩主毛利吉就の時代に、水はけをよくして農民や町人を浸水被害から守るため、橋本川と松本川をつなぐ新堀川が開削されました。また6代藩主毛利宗広は、水害対策と同時に防火用水や農業用水の確保、水運への利用を目的として、松本川から萩城下へ水を引き入れる大溝(藍場川)を開削しました。

河川を整備する一方で、萩城下の水防体制や規則などの整備も行われました。橋本川、松本川が氾濫した際の町人の出動体制を定め、洪水が起きると各町がリレー形式で鐘を鳴らし、町ごとに目印となる「のぼり」や「ちょうちん」を持ち場に立て、土手の決壊を防ぐため出動しました。また、平時においても藍場川や新堀川をはじめとする水路を保全するために、水路の清掃やゴミの投棄を禁じる規則などが設けられました。



萩校明倫館(八江萩名所図画)  
※建物の完成は享保3年。

## 藩校明倫館と治水

萩藩5代藩主毛利吉元によって享保4年(1719)に開設された藩校明倫館は、130年後の嘉永2年(1849)に、江向の地に広大な規模の新明倫館を新築して移されました。土地は広大ですが海拔の低さからもともと湿地が多く田圃や遊水池として使われていたため、周囲には新堀川へ繋がる溝が設けられ、敷地内の水はこの溝へ流されていました。溝の石垣には水ヌキと呼ばれる排水溝の跡と思われる箇所が残っています。また、城下町絵図によると、明倫館の北東の角だけが田地のまま整備されておらず、ここは大水の際に水を逃がすための遊水池として利用されていたと思われます。

## 多用途な水練池

藩校明倫館の敷地内に設けられた水練池は藩政時代に遊泳術や水中騎馬の練習場として使われていましたが、当時の絵図には「用水堀」と書かれていて、池の北側には水を逃がすための水路(暗渠)も造られていたらしく、水練のほかには水害対策の調整池としても使われていたのではと考えられています。

明治9年(1876)、新政府と対立した前原一誠が拳兵(萩の乱)し、明倫館に武器を集めて拠点としましたが、味方に裏切られ火薬(煙硝)を全て水練池に投げ入れられてしまいました。そのため、地元では水練池のことを「煙硝池」と呼んでいました。

## 萩の近代化の一端を担った南園御殿

7代藩主毛利重就の代、明和3年(1766)に江向八町(八丁)に藩主の別邸南園御殿が設けられました。後に敷地内に薬草を栽培する薬園が設けられ、幕末期には製薬所、医学所、舎密(せいみ)局(理化学研究所)が置かれ、ガラスの製造や写真の撮影なども行われていました。

天保7年(1836)、萩開府以降最大規模の洪水である「申年の大水」によって萩城下の3分の2が浸水、200名の死者が出ました。このとき、後に13代藩主となる毛利敬親はこの南園の別荘にいましたが、河添の土手が決壊したため、瓦町の御客屋に避難しました。この経験から敬親はこのほか治水に熱心に取り組み、後に姥倉運河の開削を行うことになりました。

明治の終わりには、南園の建物を一部利用して高等女学校が創設されました。



南園跡のクロマツ

## 施設のご案内

### 萩・明倫学舎

萩藩校明倫館の跡地に建つ旧明倫小学校の木造校舎を改築した、萩の観光起点。本館には、観光インフォメーションセンター、藩校明倫館・旧明倫小学校展示室、ジオパークビジターセンター、お土産ショップ、レストランなどがそろう。2号館は、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」のビジターセンター、幕末ミュージアムがあります。

住所: 萩市江向602番地 電話: 0838-21-0304  
時間: 9:00~17:00 (年中無休)  
料金: 本館無料、2号館 大人300円、高校生200円、小中学生100円

### 萩あいぶらり(萩市立萩図書館・児童館)

豊富な郷土・維新資料を軸に市民の暮らしに役立つ図書館をめざし、喫茶・軽食コーナーが設けられています。隣接して未来を担う子どもたちのための児童館があります。

住所: 萩市江向552番地 電話: 萩図書館 0838-25-6355 児童館 0838-25-1025  
時間: 9:00~21:00 (12/28~1/4は17:00閉館) 児童館 9:30~21:00  
休館日: 図書館 2月の第1月曜から3日間の休館(蔵書点検のため) 児童館 毎週火曜(夏休み中の火曜は開館)、12/28~1/5、8/13~16

### 中央公園

公園内には軽スポーツも楽しめる芝生広場やジョギングコース、テニスコート、水の広場、木製の遊具などが設けられています。

住所: 萩市江向552番地 2 電話: 0838-25-3160 (萩市都市計画課)  
料金: 駐車場8:00~18:00 普通自動車310円(※萩市民は無料)

### 渡辺高蔵旧宅

松下村塾の塾生で日本の造船業の近代化に貢献した渡辺高蔵の居宅として建てられた明治中期の建物です。

住所: 萩市江向5番地 電話: 0838-25-3290 (萩まちじゅう博物館推進課:平日のみ)  
時間: 9:00~17:00 (入館は16:30まで) (年中無休)  
料金: 無料  
休館日: 毎週水曜日、年末年始(12/29~1/3)

### 山口県立萩美術館・浦上記念館

浮世絵や東洋陶磁、近現代の陶芸・工芸作品、萩焼などを展示しています。

住所: 萩市平安古町586-1 電話: 0838-24-2400  
時間: 9:00~17:00 (入館は16:30)  
料金: 普通展示 一般300円、学生200円  
※特別展示は展覧会によって観覧料が異なります。  
休館日: 月曜日、年末年始、展示替え期間 ※展覧会によって変更の場合あり

## 江向季節暦

	春	夏	秋	冬
自然	江向堤の桜 (3月下旬) ミドリヨシノ (4月上旬)	スズレン ウナギ テナガエビ カニ	カニ スズレン ウナギ テナガエビ	渡り鳥 カンヒサクラ (2月~3月)
行事	萩城下の古き雑たち (渡辺高蔵旧宅) (2月3日~4月3日)	側溝清掃 オープンガーデン オノリ探り アオノリ探り (3月中旬)	盆踊り 子どもごし (8月)	金谷天神祭り 萩時代まつり (11月第2日曜日) 萩ふるさとまつり (11月第2土・日曜日)

H30.3 現在

編集 | 江向地区有志

発行 | 萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金  
(文化遺産総合活用推進事業)



## 萩まちあるきマップ

# 江向地区 おたからマップ

~水とともに暮らした城下町・萩の教育と近代化の歴史~



三角州の中心部から南に位置する江向は、三角州の中でも周りに比べて海拔が低いため湿地が多く、江戸時代、北は水田や蓮田、遊水池として活用され、南は中下級の武家地となっていました。洪水のたびに浸水するため、藩では水害対策として新堀川と藍場川を開削し、水運や生活用水などにも利用してきました。

広大な低湿地には後に藩校明倫館が移転され、藩士の教育の中心として機能します。また明治以降は主要な公共施設が集中することで近代化の波を吸収し、結果的に城下町の姿を保存することにもつながりました。

まちの中を流れる大小いくつもの水路は治水や農業用水として人々の生活を支えると同時に、カニや魚、鳥など様々な生き物の住処にもなっています。

水とともに暮らしてきた萩城下町のへそを歩いてみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩データベースでチェック!!  
machihaku.city.hagi.lg.jp/db/





# 水とともに暮らした城下町の秘密を探ろう

- 1 水練池
- 2 水又キ跡
- 3 萩城下街割原標石
- 4 藍玉座跡
- 5 水車跡地

### 萩の筋名をたどろう!

萩の町は毛利氏の城下町として計画的につくられた都市です。碁盤目状に区切られた城下町の街路には、職業や施設にちなんだ名前など、様々な筋名が付けられています。江向では、旧萩藩校明倫館の前にある「明倫館南門筋」や、水車のそばにある「水車筋」などがあります。

### 橋本川沿いの風景

ゆるやかに流れる橋本川と土手沿いの風光明媚な景色は、藩主の別邸である南園が設けられるほど、江戸時代から萩の人々に親しまれてきました。江戸時代に選定された橋本川と松本川沿岸の8つの美しい風景をまとめた「萩八景」には、夕暮の橋本川にお寺の鐘の音が響き渡る風景や、両岸の土手と山々に雪化粧がかかる風景が選ばれています。現在は土手沿いにサクラ並木が植樹され、橋本川沿いに遊歩道が設けられていて、川沿いの四季の風景を楽しむことができます。

**凡例**

- まあーるバス 西回りコース
- まあーるバス 東回りコース
- まあーるバス パス停
- 保存樹木
- 公共トイレ
- 駐車場
- 有料駐車場
- レンタサイクル
- 観光インフォメーション



### カニを探してみよう

江向は新堀川や藍場川をはじめ、大小いくつもの水路がまちの中に通っています。その近くを歩いていると、道路や水路を歩くカニの姿を見かけることがあります。彼らは川の近くの石垣のすき間や側溝など、水のある場所にすんでいます。人が近づくと隠れてしまうので、そっと探してみましょう。

### 1 水練池

藩政時代、ここで遊泳術や水中騎馬が行われました。藩校の水練池で国内に現存する唯一のもので、大水の際の排水を処理する用水池としても利用され、水が溢れないよう、水練池の北側に暗渠が掘られていました。

### 江向 おたからマップ

#### 江向の名前の由来

大昔、三角州には現在よりも深く川の流れが入り込んでいました。三角州の真ん中辺りは水が溜まって沼地になっていて、萩の北側から見た時に江の向い側にある土地なので「江向」と呼ぶようになったと伝えられています。このように萩の地名には水に由来するものが多く残されています。

### 旧萩藩校明倫館／萩・明倫学舎

江向の広大な土地に建てられた萩藩校明倫館の跡。敷地内には槍・剣術道場だった有備館や遊泳術などを訓練した水練池、明倫館の正門である南門など、数多くの遺構が現存しています。また、明倫館の跡地には昭和10年(1935)に建てられ、近年まで授業が行われていた旧明倫小学校の木造校舎が残っています。赤いフランス瓦や連続窓、下見板張りを組み合わされ、和と洋がモダンにミックスされたレトロなたたずまいの校舎(本館が登録有形文化財)は、萩観光の起点「萩・明倫学舎」として活用されています。

### 城下町の「軸」を探してみよう

当時のまち「山あて」といって周辺の山々と萩城の天守を基準にまちの「軸」をつくり、城下町づくりが進められたと考えられています。江向地区では、山の頂きに向かってまっすぐ伸びる道路や、城のあった指月山を見通せる場所を見つけることができます。

### 10 渡辺萬蔵旧宅

日本の近代造船の発展に寄与しました。松陰に学んだ松下村塾生で最も長生きし、帰郷後は松下村塾の保存事業に地元代表として尽くしました。

### 高島北海誕生地

日本画家。フランス語・地質学・植物学などを学び、日本人として初めて山口県の地質図を作成しました。後にフランスに留学し、美術家たちと交流。晩年は山口県内の景勝地の整備と保護に尽力しました。長門峡の名付け親。

### 萩の教育と近代化の足跡を辿る

旧萩藩校明倫館

6 萩市民館

7 萩市役所

8 中村雪樹旧宅地

9 南園跡(旧萩女学校)

10 渡辺萬蔵旧宅

橋本川沿いの景観

### 3 萩城下街割原標石

萩の中心を示すために設置されました。現在は市民館の西側に移動されており、もとの位置は路面に花崗岩を埋めて標示されています。

### 4 藍玉座跡

藍玉座(藍色の染料となる藍玉を造っていた施設)があった場所。藍場川の名前の由来でもあります。

### 5 水車跡地

ろうそくなどの原料となるハゼの実を白でつく水車があった。川の両岸に溝のついた石が残る。大正時代には正午の時鐘「ドン」がやかっていた。

### 8 船まわし跡

ここは川舟の向きを替えていた

### 6 7 萩市民館／萩市役所

明治100年を記念し「将来への出船」をイメージしてデザインされた萩市民館(1968)とその隣の萩市役所(1974)は、当時の日本を代表する建築家の一人、菊竹清訓の設計。光の網のように電球がきらめく市民館内部の照明は世界的な照明デザイナー石井幹子の初期の作品。萩市民館には町印のほりをカラフルにデザイン化したどんちよう、萩市役所ロビーには町印ちようちんが飾られています。

### 6 萩市民館

宮中で活躍した明治政府高官

### 7 萩市役所

川柳の改革復興に努めた

### 9 南園跡

藩主の別邸。後に薬園やガラス製造所も造られた。明治以降は女学校や萩高南校舎となった。

### 10 渡辺萬蔵旧宅

勤場(代官所)の跡地。萩の乱の際には官軍の本拠地になった。

### 3代藩主毛利吉就によって萩城下の水はけをよくするために開削された水路。農業用水や船による物資の運搬などにも利用された。

### 保田中のイチョウ

萩の福祉・教育に貢献

### 3代首相・陸軍大将

萩あいぶらり(萩図書館・児童館)

### 藍場川の先に城下町のシンボル指月山が見える!

### 4 中村雪樹旧宅地

教育に尽力した初代萩町長

### 5 水車跡地

ろうそくなどの原料となるハゼの実を白でつく水車があった。川の両岸に溝のついた石が残る。大正時代には正午の時鐘「ドン」がやかっていた。

### 8 船まわし跡

ここは川舟の向きを替えていた

### 9 南園跡

藩主の別邸。後に薬園やガラス製造所も造られた。明治以降は女学校や萩高南校舎となった。

### 10 渡辺萬蔵旧宅

勤場(代官所)の跡地。萩の乱の際には官軍の本拠地になった。

